

## ヴィオレ＝ル＝デュックと文芸誌『リセ・フラン セ』：書誌的側面から

岩根, 久  
大阪大学大学院言語文化研究科教授

<https://doi.org/10.15017/21014>

---

出版情報 : Stella. 30, pp.103-115, 2011-12-20. Société de Langue et Littérature Françaises de  
l' Université du Kyushu

バージョン :

権利関係 :



# ヴィオレ＝ル＝デュックと文芸誌『リセ・フランセ』

——書誌的側面から——

岩 根 久

ヴィオレ＝ル＝デュックは、1781年5月29日生まれ、文芸誌『リセ・フランセ』<sup>1)</sup>に関わる時期には38歳になっていた<sup>2)</sup>。

20歳の時に陸軍省経理部に入省以来、1848年2月、七月王政の終結とともに66歳で退職するまで、ナポレオン、ルイ18世、シャルル10世、ルイ＝フィリップと変転する政治体制の下で経理担当官吏の職務を果たしつつ、彼は余暇を文芸活動にあてた<sup>3)</sup>。なかでも、古書の収集に情熱を注ぎ、後にその蔵書をそれを必要とする青年たちに惜しみなく利用させた<sup>4)</sup>。1810年、結婚とともに妻の実家であるパリのシャバネ通り1番地の邸宅に新居を構え、金曜日ごとに友人を招いた。この「金曜会」は、彼が宮廷財務管理官に就任したのに伴い、1832年にテュイルリー宮の一角に住居を構えるまで続く<sup>5)</sup>。彼とほぼ同年代のスタンダールも「金曜会」の常連だった<sup>6)</sup>。

フランスの古典期以前の文学が、主にロマン主義者たちのあいだで、また特にサント＝ブーヴの喧伝によって世上で再評価されるようになるのは1830年以降のことになるが<sup>7)</sup>、若きサント＝ブーヴもこの「金曜会」のメンバーだった。したがって、ヴィオレ＝ル＝デュックとそのサークルについて検討を加えることは、大革命以降の文芸思潮の動向を把握する上で、重要な鍵のひとつになるであろう。

さて、文芸誌『リセ・フランセ』もヴィオレ＝ル＝デュックのサークルの周辺で誕生している。ヴィオレ＝ル＝デュックも、その義弟ドレクリューズも『リセ・フランセ』の執筆者となっているが、ドレクリューズは、自身がこの雑誌の創始者シャルル・ロワゾン<sup>8)</sup>と知己になり、執筆に関わるようになったきっかけは「金曜会」の常連のひとりスタプフェル<sup>9)</sup>の紹介であったと語っている<sup>10)</sup>。当時活発であった政治的な議論に疲れ果てていたシャルル・ロワゾンが、

純粹に文芸のみに捧げられた雑誌を企画し<sup>11)</sup>、それに相応しい執筆陣<sup>12)</sup>を揃えるに際し、ヴィオレール＝デュックやドレクリューズに声がかかったというわけである。『リセ・フランセ』、正確には『リセ・フランセ、あるいは文学および批評論集』は、「何よりもまず、麗しきムーサたち」(Dulces ante omnia musae) というウェルギリウス『農耕詩』第2歌第475行の詩句に由来する銘句とともに、1819年6月末あるいは7月初頭に発刊される<sup>13)</sup>。文学的な嗜好の変転期にあつて、この文芸誌にはミューズの名のもとに古典主義的要素とロマン主義的要素という対立する二つの要素が混在していた<sup>14)</sup>。

以下は上に述べた『リセ・フランセ』、およびヴィオレール＝デュックが『リセ・フランセ』に執筆した記事の採録状況について書誌的な事実の調査報告である。これについて適切な文献が今のところ存在しない以上、ヴィオレール＝デュックと『リセ・フランセ』の文芸上の関わりを考察するための基礎資料として、無益ではないと考える。

#### 資料について

現在インターネット上で参照できる資料としては、ハーバード大学図書館所蔵本(Harvard Libraries, 請求記号 37572.8 V.1-V.5, 2008年11月にデジタル化)とリヨン市立図書館所蔵本(Bibliothèque municipale de Lyon, 請求記号 SJ BC 729/1 T.01-T.05, 2010年6月にデジタル化)がある。いずれも完本ではないが<sup>15)</sup>、相補することによって全体を把握することができる。

ハーバード大学図書館所蔵本には、頁外の挿入物として第5巻10号の末尾(328頁の後)に第6巻からの発行形態の変更に関する4頁の案内冊子(実際には第6巻は刊行されない)、第5巻11号の末尾(360頁の後)に4頁の歌詞付楽譜が見られる。

リヨン市立図書館所蔵本には、第1巻6号の表紙と裏表紙、第2巻8号の表紙と裏表紙、第3巻5号の表紙と裏表紙、第4巻3号の表紙と裏表紙、第5巻1号の表紙と裏表紙が挿入されている。雑誌製本の際、個々の配本の表紙は除去されることが多いため、この資料は貴重である。

なお、フランス国立図書館所蔵の資料については、トルビヤックの本館所蔵本は保存上の見地から実物を参照することができず、マイクロフィルムあるいはマイクロフィッシュでの参照になる。アルスナル所蔵本は実物の参照が可能

であるが、第3巻までしか存在しない。トルビヤックの本館所蔵本（請求記号 Z-20818）には『リセ・フランセ』の<sup>プロスペクティヴ</sup>発刊予告案内の冊子が巻頭に挿入されている（マイクロフィッシュで確認済）。

### 各号の発行状況

後出の表を参照。1819年6月に刊行された『リセ・フランセ』発刊予告案内には、刊行日は不定であるが月3回発行、各号は全紙3葉（8折本48頁）から成り、9号分予約購読の場合10フラン、各号の分売は1フラン50サンチームと記されている。この形態は原則として第4巻まで継続される。第5巻1号（1820年7月1日）より、毎週土曜日刊行、各号は全紙2葉（8折本32頁）から成り、13号分予約購読の場合10フラン、各号の分売は1フランとなる（第5巻1号の裏表紙に記載）。また、各号の第1頁下部に刊行日が印刷される。第6巻からの発行形態の変更に関する案内冊子によると、郵便代の値上げに対処するため、月刊とし、毎月末発行（第1号は1820年10月31日の予定）、各号は全紙8葉～9葉（8折本128頁～144頁）から成り、3号分予約購読の場合10フラン、各号の分売は4フランと記されているが、第6巻は刊行されなかった。発刊された号は、第1巻から第5巻、合計50号。

### 各号の記事のジャンル

第1巻1号は、Poésie, Littérature Ancienne, Littérature Française, Beaux-Arts, Variétés の5種のジャンルで出発した。刊行された全50号に亘って出現回数の多いジャンル順に並べると、Poésie (46), Littérature Française (44), Littérature Étrangère (41), Théâtre (38), Variétés (32), Beaux-Arts (20), Littérature Ancienne (8), Voyage (6), Histoire (5), Revue Littéraire (5), Nécrologie (4), Institut de France (3), Académie-Française (1), Biographie (1), Instruction Publique (1), Philosophie (1) となる（括弧内の数字は回数）。なお、各巻の最終号の最後の4頁（ただし、第5巻14号は6頁）はジャンル別目次となっている。

## 『リセ・フランセ』各号の発行状況

巻	号	刊行月・刊行日	該当頁	頁数	BF収録日
Tome I	1	1819/07*	1-48	48	1819/07/10
	2	1819/07	49-96	48	1819/07/17
	3	1819/07	97-144	48	1819/07/24
	4	1819/08	145-192	48	1819/08/07
	5	1819/08	193-240	48	1819/08/21
	6	1819/08	241-288	48	1819/08/28
	7	1819/09	289-336	48	1819/09/06
	8	1819/09	337-384	48	1819/09/18
	9	1819/09	385-432	48	1819/10/02
Tome II	1	1819/10	1-48	48	1819/10/09
	2	1819/10	49-100	52	1819/10/23
	3	1819/10	101-148	48	1819/10/30
	4	1819/11	149-208	60	1819/11/13
	5	1819/11	209-256	48	1819/11/20
	6	1819/11	257-300	44	1819/12/04
	7	1819/12	301-344	44	1819/12/11
	8	1819/12	345-392	48	1819/12/19
	9	1819/12	393-444	52	1820/01/01
Tome III	1	1820/01	1-48	48	1820/01/08
	2	1820/01	49-104	56	1820/01/22
	3	1820/01	105-152	48	1820/01/29
	4	1820/02	153-200	48	1820/02/12
	5	1820/02	201-248	48	1820/02/19
	6	1820/02	249-296	48	1820/02/26
	7	1820/03	297-344	48	1820/03/11
	8	1820/03	345-396	52	1820/03/18
	9	1820/03	397-444	48	1820/04/01

巻	号	刊行月・刊行日	該当頁	頁数	BF収録日
Tome IV		1820/04	1-48	48	1820/04/08
	2	1820/04	49-96	48	1820/04/22
	3	1820/04	97-144	48	1820/05/06
	4	1820/05	145-192	48	1820/05/20
	5	1820/05	193-240	48	1820/05/20
	6	1820/05	241-288	48	1820/06/03
	7	1820/06	289-336	48	1820/06/10
	8	1820/06	337-384	48	1820/06/17
	9	1820/06	385-432	48	1820/07/01
Tome V	1	1820/07/01	1-40	40	1820/07/08
	2	1820/07/08	41-72	32	1820/07/22
	3	1820/07/15	73-104	32	1820/07/22
	4	1820/07/22	105-136	32	1820/07/29
	5	1820/07/29	137-168	32	1820/08/05
	6	1820/08/05	169-200	32	1820/08/12
	7	1820/08/12	201-232	32	1820/08/19
	8	1820/08/19	233-264	32	1820/09/02
	9	1820/08/26	265-296	32	1820/09/02
	10	1820/09/02	297-328	32	1820/09/09
	11	1820/09/09	329-360	32	1820/09/16
	12	1820/09/16	361-392	32	1820/09/23
	13	1820/09/23	393-424	32	1820/09/30
	14	1820/09/30	425-456	32	1820/10/07

\* 註 13 に記したように、予告の 6 月 25 日ではなく、7 月に刊行された可能性が高い。

## ヴィオレール＝デュック担当の作品・記事

巻	号	発行時期	ジャンル	表題	頁数
I	1	1819/07	Poésie	LA ROSE.	7-8
	4	1819/08	Théâtre	<i>Première représentation de l'Ir-résolu, comédie en un acte et en vers, de M. Leroy.</i>	178-180
	7	1819/09	Poésie	HENRI IV ET MAYENNE.	289-293
II	2	1819/10	Littérature Française	<i>Origine et progrès de la poésie française.</i> PREMIER ARTICLE.	53-66
	5	1819/11	Littérature Française	<i>Origine et progrès de la poésie française.</i> SECOND ARTICLE.	212-224
III	1	1820/01	Littérature Française	<i>Origine et progrès de la poésie française.</i> TROISIÈME ARTICLE.	7-19
	2	1820/01	Variétés	<i>Mémoire sur la nature des maladies endémiques dans le midi de l'Espagne, et particulièrement sur celle de la Fièvre jaun; par M. Mimaut.</i>	99-101
	6	1820/02	Théâtres	CALAS, <i>mélodrame par M. Victor.</i>	272-281
	7	1820/03	Variétés	<i>Constant et Discrète</i> , poème en quatre chants, suivi de poésies diverses, par le comte GASPARD DE PONS.	341-342
	8	1820/03	Biographie	<i>Vie de S.A.R. monseigneur le duc de Berry</i> , par Th. DELBARRE. <i>Relations historiques [sic] des événements funèbres de la nuit du 13 février 1820</i> , par J. B. A. HAPDÉ. <i>Charles de France, duc de Berry, ou sa vie et sa mort</i> , par un Officier d'artillerie.	352-353
IV	5	1820/05	Poésie	<i>Adieux à Chloé.</i>	193-194
V	3	1820/07/15	Littérature Française	<i>Œuvres de Rabelais</i> , avec un Glossaire; nouvelle édition en 3 vol. in-18, ornée d'un portrait et de vignettes gravés sur bois.	88-90
	6	1820/08/05	Poésie	STANCES <i>Sur la mort de Chales Loyson.</i>	169-171
	1	1820/09/02	Littérature Française	<i>Œuvres de Jean Rotrou</i> : 5 vol. in-8°.	297-301

## 註

- 1) *Lycée français, ou Mélanges de littérature et de critique*, 1819-1820.
- 2) Emmanuel Louis Nicolas Viollet-Le-Duc (1781-1857). 歴史建造物の修復で有名な建築家, Eugène Emmanuel Viollet-Le-Duc (1814-1879) は彼の長男である。
- 3) ヴィオレ＝ル＝デュック自身の伝記は存在しないが, 建築家である息子の伝記の一部として語られることが多い—— Voir Paul GOUT, *Viollet-le-Duc, sa vie, son œuvre, sa doctrine*, Paris: H. Champion, 1914; Geneviève VIOLLET-LE-DUC, *Les Viollet le Duc, bourgeois de Paris*, Paris: le Vieux papier (Auxerre, Impr. moderne auxerroise), 1962; Eugène Emmanuel VIOLLET-LE-DUC, *Lettres d'Italie, adressées à sa famille, annotées par Geneviève Viollet-le-Duc*, Paris: L. Laget, 1971; Geneviève VIOLLET-LE-DUC, *Les Viollet-le-Duc, Histoire d'une famille, Documents et correspondances*, Sommière (Gar): Editions Romains Pages / Genève: Slatkine, 2000. なかでも彼の玄孫にあたるジュヌヴィエーヴ・ヴィオレ＝ル＝デュック (1909-2011 年。本稿執筆中に訃報を知った。12月9日逝去, 享年 102) は豊富な資料を残してくれている。また彼の文芸上の業績は, 本稿末尾の書誌目録に記載している。なお, それら個々の書誌の詳細については, 拙稿「E.-L.-N. ヴィオレ＝ル＝デュック著作目録註解」, 『言語文化研究』, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科, 第 26 号, 2000 年, 219-232 頁, 一部の作品についての論考は, 拙稿「E.-L.-N. ヴィオレ＝ル＝デュックの『計木詩法』(*La Métroxylootechnie*) について」, 金崎春幸他編『シュンボシオン——高岡幸一教授退職記念論集——』, 朝日出版社, 2005 年, 245-254 頁, および拙稿「サント＝ブーヴとヴィオレ＝ル＝デュック」, 柏木隆雄教授退職記念論文集刊行会編『テキストの生理学』, 朝日出版社, 2008 年, 447-459 頁を参照のこと。
- 4) 彼は退職後, 蔵書をすべて競売に掛けて売却するが, その蔵書の内容については彼自身が退職前に編纂した次の 2 冊の『蔵書目録』に詳細に記載されている—— *Catalogue des livres composant la bibliothèque poétique de M. Viollet le Duc, avec des notes bibliographiques, biographiques et littéraires sur chacun des ouvrages catalogués; pour servir à l'histoire de la poésie en France*, Paris: L. Hachette, 1843; *Catalogue des livres composant la bibliothèque poétique de M. Viollet le Duc, avec des notes bibliographiques, biographiques et littéraires sur chacun des ouvrages catalogués. Chansons, fabliaux, contes en vers et en prose, facéties, pièces comiques et burlesques, dissertations singulières, aventures galantes, amoureuses, prodigieuses*, Paris: J. Flot, 1847. 蔵書中, 16 世紀と 17 世紀に出版された著作が大半を占める。これによって彼の関心がこれらの世紀に集中していたことが伺える。
- 5) Paul GOUT, *op. cit.*, 1914, p. 6; Geneviève VIOLLET-LE-DUC, *op. cit.*, 1962, p. 4 を参照のこと。また「金曜会」については, ジュヌヴィエーヴ・ヴィオレ＝ル＝デュック

- クが以下のように記載している——「結婚当初から 1832 年まで、エマニュエル・ヴィオレール＝デュックはシャバネ通りのドレクリューズ一家の館に居住していた。毎金曜日、彼のサロンとその名高い書斎は当時の文学青年達に開かれていた。常連は、P・L・クーリエ、サント＝ブーヴ、J・J・アンペール、ド・マレスト、A・スタプフェル、スタンダール、ヴィクトル・ジャックモン、エドアル・モノ、ソトレ、シャルル・マニヤン、サン＝マルク・ジラルダン、デュヴェルジエ・ド・オランヌ、ヴィテ。メリメもその内の一人だったが、同じ館の「櫓」と称する 5 階に住んでいたドレクリューズ宅にはさらに足しげく通っていたようだ。エマニュエル・ヴィオレール＝デュックは既婚者なので集まりには御婦人方も参加していた。ドレクリューズのところの常連もほぼ同じメンバーだったが、会合は日曜日に行われ、客は男性のみであった」(Eugène Emmanuel VIOLLET-LE-DUC, *op. cit.*, 1971, p. 139, note 1)。
- 6) ヴィオレール＝デュックと同年齢の義兄(妻の兄)ドレクリューズは、同じ建物の別の階に住んでいたのだが、以下の証言を残している——『『詩法』の著者〔ヴィオレール＝デュック〕のサークルが人々を惹きつけたのには幾つかの理由があった。まずは、確固とした教養に加えて優雅に人をもてなすすべを弁えた奥方、そして館の主人の心地よく有益な会話、最後にその貴重な蔵書である。彼は勉強熱心な若者達にそれを閲覧させ、彼らは喜んでその荣誉に浴した。そこで、金曜日ごと、館の女主人が女性の友人の幾人かに囲まれて過ごしているサロンを横切り、ご婦人方に挨拶をしたあと、大部分の常連は書斎へと入る。そこでは会話が常に弾んでいた。アルベール・スタプフェル、子アンペール、後に出版業者となったソトレ、非常に機知に富んだ社交家で文芸を愛好するド・マレスト氏、スタンダールことベール、かの風刺文書家クーリエ達が会話にこの上もない精彩を与えていた』(Étienne-Jean DELÉCLUZE, *Souvenirs de soixante années*, Paris: Michel Lévy Frères, 1862, p. 157)。
- 7) このあたりの事情については、すでに拙稿で何回か取り扱っている——『『ロンサル作品集 (1609)』とサント＝ブーヴ』, Gallia 第 31 号, 大阪大学フランス語フランス文学会, 1992 年, 55-63 頁; 「サント＝ブーヴ『16 世紀フランス詩及び演劇の歴史的批評的展望』の周辺」, 『ロンサル研究』VI, ロンサル研究会, 1993 年, 33-45 頁; 「サント＝ブーヴとヴィオレール＝デュック」, 柏木隆雄教授退職記念論文集刊行会編『テキストの生理学』, 朝日出版社, 2008 年, 447-459 頁を参照のこと。
- 8) Charles LOYSON (1791-1820)。
- 9) Albert STAFFER (1802-1892), 彼はゲーテの仏訳に携わり、1821 年から 1825 年にかけて、ゲーテの劇作品集の翻訳を出版している。それを出版した出版業者ソトレ(Philibert Auguste SAUTELET, 1800-1830)も「金曜会」の常連である。ちなみに、サント＝ブーヴ『16 世紀フランス詩及び演劇の歴史的批評的展望』も 1828 年にソトレより刊行されていることを明記しておきたい。
- 10) DELÉCLUZE, *op. cit.*, pp. 130-131.

- 11) 「ロワゾンは、際限なく繰り返される議会に関する議論に自分と同じく多くの人がかうんざりし始めていたこの時期に、文学と芸術のみを扱った論集の出版を試みるのは良い機会であると判断した」(DELÉCLUZE, *op. cit.*, p. 128)。
- 12) 第3巻(1820年1月)よりタイトル頁に主要な執筆陣として、Avenel, Bert, Brifaut, Bruguière de Sorsum, Casimir Delavigne, Germain Delavigne, Jos.-Vict. Leclerc, De Lécluse, Charles Loyson, Patin, Scribe, Violet-Leducの名前が記載される。それぞれ Denis Louis Martial AVENEL (1783-1875), Perre-Nicolas BERT (1788-18.), Charles BRIFAUT (1781-1857), Antoine BRUGUIÈRE DE SORSUM (1773-1823), Casimir DELAVIGNE (1793-1843), Germain DELAVIGNE (1790-1868), Joseph-Victor LECLERC (1789-1865), Étienne-Jean DELÉCLUZE (1781-1863), Charles LOYSON (1791-1820), Henri PATIN (1793-1876), Eugène SCRIBE (1791-1861), Emmanuel Louis Nicolas VIOLLET-LE-DUC (1781-1857)である。Perre-Nicolas BERTの没年については不詳であるが、1834年出版の『携帯現代世界人名事典』(*Biographie universelle et portative des contemporains...*, Paris: F.-G. Levrault, 1834, tome 5° - supplément, pp. 51-52)に記載が確認されている。Charles LOYSONは1820年6月20日に亡くなるため、第5巻(1820年7月)よりタイトル頁からその名が消えている。
- 13) *Bibliographie de la France (Bibliographie de la France, ou journal général de l'imprimerie, et de la librairie...*, Paris: Pillet, 1814-1971)。本稿では以下BFと略記する)によれば、1819年6月26日号に『リセ・フランセ』の発刊予告案内の刊行が記録されており(参照番号2437)、その案内には「この雑誌は各号全紙3葉から成る。月3回発行。第1号は6月25日発行予定」とある。実際の刊行および配本がその日に行われたのか、あるいは遅れたのかは現在調査中であるが、BFの1819年7月10日号に『リセ・フランセ』の第1号刊行が記載されているので、7月発刊の可能性は高い。もし予告通り6月25日に発刊されたものなら、BF前号の1819年7月3日号に刊行が記載されるのが普通である。
- 14) 「この雑誌は、こうした移行期における文学史上のひとつの興味深い記録となる。そこには全く異なった、いや相反するとさえ言える趣味に従った記事が混在していた。それは正に好敵手の対峙と表現するに相応しいものであった。なぜなら、古典的な趣味や古典派の支持者達と、スタール夫人やバイロン卿の詩に既に心酔していた青年達との間には、まだ何の敵意もなかったのだから」(DELÉCLUZE, *op. cit.*, p. 221, note 1)。
- 15) ハーバード大学図書館所蔵本は第1巻38-39, 122-123, 138-139, 196-197頁が欠落している(偶数ページ-奇数ページの欠落であるから、落丁ではなく、デジタル化の際の脱落であると考えられる)。リヨン市立図書館所蔵本は、第5巻第10号の箇所、すなわち297-328頁が完全に欠落している(これは落丁であると思われる)。

## Bibliographie de Emmanuel Louis Nicolas Viollet-le-Duc

Année	Œuvres	Références bibliographiques 1				Références bibliographiques 2					
		JLF				BNF	Q	B	V	VLD	autre
Année	Œuvres	BF				BNF	Q	B	V	VLD	autre
		Numéro	Date	Réf.	autres infos.						
1809	Nouvel art poétique	Second cahier, p. 55, 1809/02					*	*	*	*	*
1811	Rome et le Tibre	-	-	-		*				*	
1812	Le Retour d'Apollon	1(15)-38	1812/06/12	2933		*	*			*	
1815	Philippiques à Napoléon	4(18)-37	1815/09/16	2258		*	*	*		*	
1817	L'art de parvenir	6(20)-33	1817/08/16	2560		*	*	*	*	*	
1819	Deux pièces inédites de J.-B. P. Molière	8(22)-14	1819/04/03	1211		*	*	*	*	*	L
1819-1820	Lycée français, ou Mélanges de littérature et de critique.	8(22)-26 9(23)-41	1819/06/26- 1820/10/07	2437 3578		*	*			*	
1820	La Métroxylotechnie	9(23)-25	1820/06/17	2185		*	*	*		*	
1820	Rotrou (éd. de), Tome I <sup>er</sup> , in-8°	9(23)-31	1820/07/29	2718							
1820	Rotrou (éd. de), in-8°, 5 vol.	9(23)-32	1820/08/05	2831	Annonce	*	*			*	
1821	Boileau (éd. de), in-18, 4 vol.	10(24)-20	1821/05/18	2004	Annonce	*	*				
1821	Boileau (éd. de), Tome I <sup>er</sup> , in-18	10(24)-23	1821/06/09	2208							
1822	Régnier (éd. de), in-18 (BNF In-12 err*)	11(25)-33	1822/08/17	3691		*	*			*	
1823	Boileau (éd. de), in-8°	12(26)-30	1823/07/26	3075		*	*			*	
1823	Boileau (éd. de), in-18, 4 vol.	12(26)-30	1823/07/26	3075							

Année	Œuvres	BF				BNF	Q	B	V	VLD	autre
		Numéro	Date	Ref.	autres infos.						
1823	Régnier (éd. de), in-8°	12(26)-30	1823/07/26	3076		*					
1825	Notice nécrologique sur P. L. Courier	14(28)-25	1825/06/18	3353		*	*		*		
1828	Boileau (éd. de), in-18, 4 vol.	17(31)-9	1828/03/01	1291							
1828	Régnier (éd. de), in-18	17(31)-9	1828/03/01	1293							
1829	Précis d'un traité de poétique	18(32)-21	1829/05/23	3235		*	*		*		
1830	Précis de dramatique	19(33)-24	1830/06/12	3233		*	*		*		
1836	Notice sur le palais des Tuileries	25(39)-40	1836/10/01	4921		*	*		*		
1837	Épître à M. Sainte-Beuve	28(42)-12	1839/03/23	1424		*	*		*		
1840	Au roi	29(43)-17	1840/04/25	1696		*					
1843	Catalogue des livres composant... ; pour servir à l'histoire de la poésie en France	32(46)-25	1843/06/24	2869		*		*	*		
1847	Catalogue des livres composant... Chansons, fabliaux...	36(50)-19	1847/05/08	1979		*		*	*		
1849	Bibliothèque de M. Viollet le Duc. 1 <sup>re</sup> partie.	38(52)-35	1849/09/01	4816		Feuilleton N° 44. 1849/11/03 : Etats des ventes		*	*		
1853	Bibliothèque de M. Viollet le Duc. 2 <sup>e</sup> partie.					Feuilleton N° 6. 1853/02/05 : Annonce du vente			*		
1853	Six mois de la vie d'un jeune homme (1797)	42(56)-36	1853/09/03	5330		*		*	*		
1853	Régnier (éd. de), in-16	42(56)-39	1853/09/24	5783		*					

Année	Œuvres	BF				BNF	Q	B	V	VLD	autre
		Numéro	Date	Réf.	autres infos.						
1854	Ancien théâtre français... (Tomes I et 2)	43 (57) -13	1854/04/01	1763		*				*	
1854	Ancien théâtre français... Tome III	43 (57) -22	1854/06/03	3055		*				*	
1855	Ancien théâtre français... Tome IV	44 (58) -12	1855/03/24	1688		*				*	
1855	Ancien théâtre français... Tomes V et VI	44 (58) -27	1855/07/07	4083		*				*	
1855	Comédie de Pierre de Larivey, Champenois. Tomes I et II	44 (58) -38	1855/09/22	5905		*				*	
1856	Ancien théâtre français... Tome VII	45 (59) -14	1856/04/05	2804		*					
1856	Catalogue d'une collection... de M.V.L.D...	45 (59) -20	1856/05/17	4319		*					
1856	Ancien théâtre français... Tome 8.	45 (59) -23	1856/06/07	5047		*					
1856	Ancien théâtre français... Tome IX	45 (59) -46	1856/11/15	10457		*					
1857	Ancien théâtre français... Tome X	46 (60) -46	1857/11/11	10379		*					
1859	Bibliographie des chanson, fabliaux...	48 (62) -24	1859/06/11	5109		*				*	

上の表はヴィオレ＝ル＝デュックが携わった出版物の書誌文献における収録状況をまとめたものである。表中の略号は下記の通り。  
**BF** の収録については、出版時期の推定に欠かさないため特に詳細に記している。

- JLF**: *Journal général de la littérature de France*.... Paris, Strasbourg, 1798-1841.
- BF**: *Bibliographie de l'Empire français*, Paris: Pillet, 1811-1814; *Bibliographie de la France, ou journal général de l'imprimerie, et de la librairie*, Paris: Pillet, 1814-1971. 所収箇所に関しては、たとえば4(18)-37, 16/09/1815, 2258 は、1815年9月16日発行の N° 37, 4<sup>e</sup> année (18<sup>e</sup> de la collection) と記された号の参照番号 2258 に収録されていることを意味する。
- BNF**: *Catalogue général de la Bibliothèque nationale de France* (<http://catalogue.bnf.fr/>)
- Q**: QUÉCARD, Joseph-Marie: *La France littéraire, ou Dictionnaire bibliographique*.... Paris: F. Didot, 1827-1839, 10 vol.
- V**: VICAIRE, Georges: *Manuel de l'amateur de livres du XIX<sup>e</sup> siècle, 1801-1893*.... Paris: Rouquette, 1894-1920, 8 vol.
- B**: BARBIER, Antoine-Alexandre: *Dictionnaire des ouvrages anonymes, par Ant.-Alex. Barbier. 3<sup>e</sup> édition, revue et augmentée*.... Paris: P. Daffis, 1872-1879, 4 vol.
- L**: LACROIX, Paul: *Bibliographie mollièresque*.... Turin: J. Gay et fils, 1872.
- VLD**: Genviève VIOLLET-LE-DUC: *Les Viollet le Duc, Histoire d'une famille, Documents et correspondances*, Sommière (Gar): Éd. Romains Pages / Genève: Slatkine, 2000, pp. 339-34.